





俺「……！？　どういう状況！？」

咲夜「お目覚めになりましたか。体調はいかがですか？」

俺「だ、大丈夫ですけど……これは一体……」

咲夜「レミリア様に貴方様を

全力でご奉仕するように言われてますので」



俺「な、なんで……？」

美鈴「男の人にはこうすることが
一番ご奉仕になるって聞いたので！」

小悪魔「実際体は悦んでもらえてるようですし」

俺「そ、そりゃまあ……」





美鈴「じゃあ全力でご奉仕させていただきますね〜！」

咲夜「こういう感じでどうでしょうか？」

俺「うわ、すごく気持ちいい！

こんなのすぐイっちゃうって！」

小悪魔「お構いなく射精してくださいね〜！」





俺「う、ううう……！」
美鈴「おお、出た出た！」
咲夜「凄い量ですね……！」





咲夜「喜んでもらえて何よりです」
小悪魔「ふふふ、これだけ出してもらえると
達成感ありますね！」
俺「ふ、う……」





咲夜「では次はこのようなしてみましよう」
俺「うわ！？ 柔らかッ！」
咲夜「どうでしょうか？」
俺「最高……」





美鈴「引き続きこっちもぱふぱふさせて

もらいますよー！」

小悪魔「ぜひ気持ち良くなってくださいねー！」

俺「わ、あ……」





美鈴「ほり出しちゃえ出しちゃえ！

がんばれ♥がんばれ♥」

小悪魔「まだまだいけるでしょう？ ほらほら♥」

俺「お、うおお……！」





俺「うっ、出る……！」
小悪魔「わ、いっぱい出ました！」
美鈴「すごいすごーい！」





咲夜「気持ちいいですか？」

俺「いや本当に最高です……でも何で

俺こんなにご奉仕してもらえてるんです……？」

咲夜「レミリア様が貴方の血の味を気に入っているんですよ」

俺「え、いつの間に……？」





小悪魔「実際貴方様の精液、大変美味しいですよ！」
美鈴「お嬢様が気に入るのも分かるわぁ〜」
俺「そういうもんなのか……？」

貴殿の血は
大変美味しい！
また紅魔館に
遊びに来なさい！
最高に
もてなすわよ！



おわり！